

令和5年度入学 社会福祉学部 一般選抜・後期 試験問題の出典

種別	大問 番号	著者名	著作物名	書名等	版元
小論文	一	永田 和宏	知の体力	2018年 P69-76より 一部改変	新潮社 新潮新書刊

令和5年度 一般選抜・後期

社会福祉学部

小論文 (120分)

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この冊子は、2ページあります。なお、下書き用紙が2枚あります。
- 3 試験中に問題冊子及び解答用紙の印刷不鮮明、ページの脱落などがあった場合は、手を挙げて試験監督者に知らせなさい。
- 4 解答は、必ず黒鉛筆(シャープペンシルも可)で記入し、ボールペンや万年筆などを使用してはいけません。
- 5 解答用紙には、氏名及び受験票と同じ受験番号を忘れずに記入しなさい。
- 6 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に記入しなさい。
- 7 下書きの必要があれば、下書き用紙を利用してかまいません。
- 8 試験終了後、問題冊子と下書き用紙は持ち帰りなさい。

問題訂正

○訂正内容

教科名 小論文

頁・問題番号・行 表紙

誤) 小論文 (120分)

正) 尚、表紙にある () 内に示された試験時間の誤りがあります。
120分とかかれておりますが、90分に訂正します。

次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。(配点 200 点)

学校で習った知識は、その後、どのように実際の生活の中で活かされているだろうか。

漢字の読み書きは日常生活で必須の能力になるし、掛け算や引き算は買い物などで無意識に役立っているだろう。小学校までの学習は、日常生活のなかで使う機会がふんだんにあるように思われるが、中学、高校と進み、そこで得た知識は、生活のなかで引き出されて活用されるというよりは、どうも引き出しの中、あるいは本棚の奥にしまわれたままで、試験のときにしか顔を出さないものが多いような気がする。

私たちの研究テーマの1つに、コラーゲンがある。コラーゲンの合成に必須の新しい遺伝子を発見したことから、コラーゲンが異常に蓄積する肝硬変などの治療をにらんだ研究を長く続けている。

(中 略)

コラーゲンはタンパク質である。タンパク質は20種類のアミノ酸の並んだもの。私たちがタンパク質を摂取するのは、体内で、すなわち細胞内でタンパク質を作るための原料であるアミノ酸を補給するためである。肉や魚、鶏卵などの動物性タンパク質、大豆などの植物性タンパク質を食べると、それらは胃で分解され、小腸で最終的にはアミノ酸やアミノ酸が数個つながったペプチドにまで分解されて吸収される。そのようにして吸収したアミノ酸を用いて、私たちは体内で必要としているタンパク質を「一から」合成するのである。

(中 略)

コラーゲンを愛飲している多くの女性も、かつては先に述べたような生物学の基礎知識は学習したはずである。しかし、それらは引き出しの奥にしまわれていて、実際の場面では顔を出さない。勉強するという場が、それを活用する場から乖離^{かいはり}してしまっている。あるいは、情報が知識として活用される場を想定しないままに、単なる情報として教え込まれているという言い方もできるかも知れない。

勉強するという場は、単に情報を詰め込むだけ。その出口は試験問題の解答の場面だけと、生徒も教師も漠然と考えてしまっているのではないだろうか。試験の問題になら答えられるが、現実生活のなかで、本来、その知識が活用されて然るべき場で、かつて覚えた知識が顔を出さない。学校で習ったことは、学校でだけ意味があるという暗黙の了解があるからである。

そのような引き出されることのない情報は、果たして知識と言えるのだろうか。インプットされた情報は、現実の場面で引き出され、活用されてはじめて意味を持つ。しまわれたままの情報は、価値としてはゼロである。その活用とは、必ず現実の場面での「応用」として、もとの形から何らかの変換を通して、あらわれるはずである。教わったままの情報が、そのまま活用されるという機会はほぼ皆無である。当然であろう、学校で習う時間で、実生活の様々なバリエーションをカバーできないはずがない。

インプットされた一次情報にどのような係数をかけて、実際の場面で応用可能な情報に置き換えるか、それが知識の活用ということに他ならない。

(中 略)

コラーゲンはタンパク質である，これは誰もが知っている情報，知識である。これを情報1としよう。タンパク質はアミノ酸の繋がったヒモ状(あるいは針金状)のものが折りたたまれて，三次元的な構造を持ったものである，これも中学か高校で学ぶ知識である。情報2としておく。タンパク質を食べると，胃や腸でアミノ酸やペプチドにまで分解され，小腸から吸収されたアミノ酸は，タンパク質を作る原料として新たなタンパク質に取り込まれる。ここまでは高校で学習する内容であり，情報3と呼んでおこう。

いっぽうで，老化によってコラーゲンの合成量が減り，皮膚の下層にあるコラーゲンの量が減少することによって，皮膚の^{ゆるみ}や^{しわ}の原因になる。これも正しい。情報4である。だからコラーゲンを食べよう，飲もうという結論は正しいか？ これが試験にできれば，たぶん多くの生徒や学生はバツをつけるはずである。

しかし，サプリメントとしてのコラーゲンは，よく売れているようである。いくつもの会社が売り出していて，それで倒れたという噂は聞かない。なぜか？

情報4が与えられたとき，大急ぎでコラーゲンの摂取に走るのには，情報の1から3までが，引き出しのどこか奥に仕舞いこまれていて，サプリメントを買いに走るまでに顔を見せないからである。本来なら情報4を聞いたとき，情報1と2に情報3を掛けあわせて，それなら旨い肉を食ったほうが得だろうと考えるのが，妥当な情報処理なのである。それができない。学校で習った知識は，現実とは違った領域に仕舞いこまれているからである。学校での勉強は，あくまで試験のため，受験のためというバイアスがかかっているために，現実の生活の場で思い出されることもなく眠っている。

現在の学校教育は，教え込むというインプットにあまりにも重心がかかり，それを引き出すというアウトプットへの訓練にかかる時間が少なすぎるように思えてならない。タンパク質はアミノ酸の並んだもので，これをポリペプチドという言葉で呼ぶと教えるとき，ちょっと寄り道をして，食事におけるタンパク質の摂り方，それがどのように利用されるかなどについての日常生活に密着した雑談があれば，その知識は必要なときに顔を出すものなのである。仕舞われたままで，アウトプットの方法を持たない情報は，決して知識としての価値を持たないという以外はないだろう。

(永田和宏『知の体力』，新潮社，2018年，pp.69-76より，一部改変)

問1 下線部「アウトプットの方法を持たない情報は，決して知識としての価値を持たない」とあるが，知識としての価値を持つためにはどうすればよいか，本文の内容に即して100字以上130字以内で説明しなさい。

問2 高校で習った知識を福祉の領域でどのように活かすことができるか，本文の内容に即して具体例とともにあなたの考えを600字以上800字以内で述べなさい。